

草をエネルギーにした「ガス化発電設備」が完成 いよいよ実証実験スタート！

放送中！
阿蘇インターネットテレビ
Web TV ASO

阿蘇市が、平成17年度から独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（通称：NEDO技術開発機構）の支援を受け実施している、草原の草からエネルギーを生み出すバイオマスエネルギー地域システム化実験事業で、ガス化発電設備がアゼリア21南側に完成し、5月30日に竣工式が行われました。



竣工式には市議会議員ら来賓のほか、事業関係者約50人が出席。事業の成功を祈願する神事の後に、ガス化発電設備の点火式を行い、市長が点火ボタンを押すと、ガス

エンジン始動後に機の上のパトライトが回転し、無事に発電が開始しました。



完成したガス化発電設備の工事費は約4億5千万円で、全額NEDO技術開発機構が負担しています。

事業では、草を資源として効率的に収集・利用するシステムを実証することにより、景観保全・生物多様性の保全等を図るとともに、全国に広がる草本系バイオマスの活用の道を拓き、草資源の有効活用モデルとして普及を図ることを目的としています。

具体的には、本市に存在する未利用の野草（ススキ等）を収集し、ガス化発電を行い、得られた電力と熱エネルギーを公共施設（温泉・温水プール）で使用するというシステムを構築するものです。

草からエネルギー Q&A



Q1 どんな事業なの？

草のエネルギー利用は国内初の試みで、草本系バイオマスを利用するうえでの課題も明らかになっていません。そのため、今回の事業では、課題の抽出と分析を行い、草を集め最終的に利用するまでのシステムが、経済的・環境的に成立することを確認する実証実験事業です。

Q2 どうやって発電するの？

図1のように、管内に空気を入れず外部から加熱しガスを発生させます。そのガスを精製しガスエンジンに送り発電します。ガス発生時に出る炭は加熱源として利用します。

（図1）



豊富に存在する草原の草は、枯渇することのない再生可能な資源であり、保全された草原は本市を代表する観光資源となっています。草原の草をバイオマスとして利活用していくことは、経済の活性化、地域の活性化、農林畜産業の再生のカギとなるものです。

草のエネルギー化は草原を維持するための新しい形として、阿蘇の草原を今の状態で未来に残すためにもあらゆる方面からのご協力をよろしく願います。



▲若手畜産農家で組織されたオペレーターによる採草のようす